

電気・精密機器

1. 評価対象企業（23 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（9 社）

日立製作所、三菱電機、富士電機、オムロン、日本電気、富士通、ルネサスエレクトロニクス、パナソニックホールディングス、ソニーグループ

【電子部品部門】（7 社）

イビデン（新規）、ミネベアミツミ、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（7 社）

セイコーエプソン、アドバンテスト、レーザーテック、HOYA、キャノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 69 名（所属先 31 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**を中心に項目数・内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 76.7 点（昨年度 74.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.4 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、産業・民生エレクトロニクス部門（9 社）が 79.6 点（昨年度 75.6 点）、電子部品部門（7 社）が 77.1 点（昨年度 74.0 点）、精密機器部門（7 社）が 72.3 点（昨年度同点）となった。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が79%（昨年度73%）、**説明会等**が78%（昨年度75%）、**フェア・ディスクロージャー**が86%（昨年度85%）、**ESG関連**が76%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が64%（昨年度66%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全12項目のうち、次の**経営陣のIR姿勢等**（a）、**説明会等**（b）、**フェア・ディスクロージャー**（c）および**ESG関連**（d）（e）の計5項目が80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- （a）「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか」（平均得点率80%〔新規項目〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：50%台1社・60%台1社・70%台9社・80%台11社・90%台1社）
- （b）「決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか」（平均得点率80%〔昨年度77%〕）（得点率：60%台3社・70%台7社・80%台11社・90%台2社）
- （c）「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率86%〔昨年度85%〕）（得点率：70%台4社・80%台12社・90%台7社）
- （d）「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率86%〔昨年度83%〕）（得点率：70%台2社・80%台13社・90%台8社）
- （e）「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率80%〔昨年度76%〕）（得点率：60%台2社・70%台7社・80%台12社・90%台2社）

- ⑤ 一方、次の**ESG関連**（a）および**自主的情報開示**（b）の項目は平均得点率が60%台以下となり、（a）は全項目中で最も低い水準であった。

- （a）「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率55%〔昨年度60%〕）（得点率：30%台1社・40%台6社・50%台11社・60%台3社・70%台1社・80%台1社）
- （b）「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率64%〔昨年度66%〕）（得点率：30%台2社・40%台3社・50%台3社・60%台8社・70%台3社・80%台4社）

（2）全体の上位3企業の評価概要

第1位 ミネベアミツミ（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点85.7点〔昨年度比+4.7点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、**説明会等**（得点率（以下省略）91%）、**自主的情報開示**（89%）が第1位、**ESG関連**が第3位（83%）、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第7位（84%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第8位（88%）となった。昨年度に比べて、**自主的情報開示**の得点率が著しく改善したほか、**説明会等**の得点率も大きく改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能、基本スタンス」が第5位となった。これに関連して、投資家の関心事項を的確に把握しながら継続的な改善を重ね、社内情報の集約や豊富な定量開示を通じて有益な対話を実現しているなど、優れたIR体制を評価する声が寄せられた。なお、IR部門のフェア・ディスクロージャーに対する意識や取り組みの更なる向上を望む声もあった。また、「経営陣のIR姿勢」は同得点第7位となった。これに関連して、会長・社長が四半期決算説明会やセルサイド向け取材に継続的に参加するなど、経営トップがIR活動に積極的に関与している点や、経営陣の企業価値・株価に対する意識の高さを評価する声があった。なお、CEOとCOOのIR活動における役割分担の明確化を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、昨年度に比べ4項目全ての得点率が大きく改善し、いずれも最も高い評価（同得点第1位を含む）となった。これらに関連して、決算説明会資料はポイントが簡潔に整理されており、定量情報の開示も充実しているため、内容を理解しやすいとの声が寄せられた。また、投資家の意見を反映して開示内

容を改善する努力をしているとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第 8 位（昨年度同得点第 1 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」が昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第 1 位（昨年度第 6 位）となったほか、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が第 2 位となった。これらに関連して、社外取締役と投資家とのスモールミーティングにおいて、毎年有意義な意見交換が行われている点の評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は昨年度に比べ得点率が著しく改善し、最も高い評価（昨年度 14 位）となった。有益なイベントとして、IR Day や千歳工場見学会（アナログ半導体事業説明会）などを挙げる声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 TDK（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 84.7 点【昨年度比+6.1 点、一昨年度比+6.9 点】、昨年度第 6 位【一昨年度第 10 位】）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（89%）、**ESG 関連**が第 2 位（85%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 2 位（92%）、**説明会等**が同得点第 6 位（84%）、**自主的情報開示**が同得点第 8 位（69%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち 4 分野において得点率が改善し、なかでも**経営陣の IR 姿勢等**では大幅な改善がみられた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、社長をはじめとする経営陣が IR 活動に積極的に関与し、決算説明会に加えて事業説明会、マネジメントミーティング、Investor Day、社外取締役とのミーティングなどを通じて、経営方針や事業戦略を丁寧に説明している点の評価する声が寄せられた。このほか、株式市場が注目するテーマについて網羅的な説明を行うとともに、事業ごとの状況に関する対話を重視する姿勢や、ミーティング頻度の増加により会社の変化が分かりやすくなった点の評価する声があった。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第 2 位となった。これに関連して、IR 部門との対話は十分に行うことができ、フェア・ディスクロージャーの遵守が他社に比べて優れている点の評価する声が寄せられた。なお、中長期的な成長性に関する議論を深めるための情報拡充や、事業部門との連携を強化し、IR 部門への情報集約・提供体制をさらに充実させることを望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会における開示」（2 項目計）が同得点第 5 位、「インタビュー等における開示」が同得点第 6 位、「説明会資料等における開示」が同得点第 7 位となった。これらに関連して、決算説明会におけるプレゼンテーションや補足資料の開示内容は概ね網羅されている点の評価する声が寄せられた。なお、図表形式で整理したデータ資料の充実や、各セグメント数値のさらなる開示を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 2 位（昨年度同得点第 12 位）となった。これに関連して、重要な情報は適時かつ公平に開示されており、フェア・ディスクロージャーが適切に実践されていることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価（昨年度同得点第 2 位）となった。これに関連して、社外取締役とのミーティングが有意義であり、投資家との対話の機会として機能している点の評価する声があった。また、「気候変動問題に関する開示」および「経営戦略と関連付けた人的資本に関する開示等」は、共に同得点第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含め

た IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第 8 位となった。有益なイベントとして、Investor Day や事業説明会を挙げる声が寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第 3 位 日立製作所（総合評価点 84.3 点〔昨年度比+1.3 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（94%）、ESG 関連（85%）が第 1 位、自主的情報開示が第 2 位（82%）、説明会等が同得点第 6 位（84%）、経営陣の IR 姿勢等が第 9 位（83%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」同得点第 5 位となった。これに関連して、IR 部門の人数が多く担当者の説明能力も高いため、有益なディスカッションが可能であり、定量情報の継続的な開示や開示内容の高いクオリティを評価する声が寄せられた。なお、GlobalLogic やストレージ事業など一部事業に関する情報開示の継続性・一貫性の向上や、個別事業のキャパシティなどの情報拡充、事業領域の広さを踏まえたより効率的で網羅的な説明を望む声もあった。また、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 10 位となった。これに関連して、Investor Day や四半期決算説明会を継続的に開催し、経営陣や各セクターのトップが経営方針や中長期ビジョンを丁寧に説明していることに加え、投資家の意見を柔軟に経営計画や情報発信に取り入れる姿勢を評価する声が寄せられた。なお、経営陣や事業責任者と投資家との対話機会の充実を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 3 位となった。これに関連して、補足資料には必要かつ十分な情報が網羅されており、多数の事業を有する中でもポイントが分かりやすく整理されていることに加え、四半期ごとの詳細な補足データ開示が充実している点を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価（昨年度同得点第 3 位）となった。これに関連して、適時適切な開示に加え、英語対応やメール配信など、投資家向け情報提供の充実した体制を評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていること」が共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、キャピタルアロケーションの基本方針が明確に示されていることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 2 位となった。有益なイベントとして、Investor Day や Physical AI Dayなどを挙げる声が寄せられた。

（参考） 部門別の第 1 位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所（総合評価点 84.3 点、全体第 3 位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 85.7 点、全体第 1 位）

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点 82.7 点、全体第 4 位）

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **三菱電機（ディスクロージャーの改善が著しい企業、**

総合評価点 82.4 点〔昨年度比+6.5 点、一昨年度比+6.8 点〕、第 5 位〔昨年度第 11 位、一昨年度第 14 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が 4 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第 6 位（84%）、説明会等（84%）、ESG 関連（80%）が同得点第 6 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 8 位（88%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 5 位（昨年度同得点第 13 位）となった。これに関連して、IR 部門には必要な情報が十分に集約されており、担当者の説明能力も高く、アナリストとの有益なディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。また、定量情報やサブセグメント情報の継続的な開示にも配慮がみられ、経営分析に資する情報提供が行われているとの声があった。なお、一部項目の情報更新や詳細な内訳情報、利益変動要因に関する定量的な開示については、さらなる充実を望む声もあった。また、「経営陣の IR 姿勢」が第 6 位となった。これに関連して、経営陣は企業価値向上や株価を強く意識し、IR Day や決算説明会をはじめ、CEO・CFO や各事業責任者が資本市場との対話に積極的に関与しているとの声が寄せられた。また、経営方針や事業戦略、資本効率向上に向けた取り組みについて継続的かつ丁寧な説明を行うとともに、投資家との対話機会も豊富であり、市場の視点を経営活動に反映する姿勢を評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「インタビュー等における開示」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 4 位（昨年度同得点第 14 位）となったほか、「説明会資料等における開示」も同様に大きく改善し、同得点第 5 位（昨年度同得点第 9 位）となった。これらに関連して、決算説明会資料や補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されており、多岐にわたる事業についてもポイントが分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。また、サブセグメントレベルまで踏み込んだ情報開示など、情報開示に前向きな姿勢を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 8 位（昨年度同得点第 16 位）となった。これに関連して、適時適切な情報開示や英語での情報提供が十分に行われている点を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が第 4 位となった。これに関連して、社外取締役と株式市場との理解促進に向けた取組みのさらなる充実を望む声があった。また、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 7 位（昨年度同得点第 12 位）となった。これに関連して、キャピタルアロケーションは具体的な数値を伴って示されており、方針が明快で理解しやすいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、IR Day を挙げる声が多く寄せられたほか、高周波光デバイス製作所・工場の見学会を挙げる声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2026年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目2 (配点 35点)	評価点	順位	評価項目1 (配点 5点)	評価点	順位	評価項目4 (配点 30点)	評価点	順位
1	6479 ミネベアミツミ	85.7	29.3	7	18.2	1	4.4	8	24.9	3	8.9	1	3
2	6762 TDK	84.7	31.1	1	16.7	6	4.6	2	25.4	2	6.9	8	6
3	6501 日立製作所	84.3	29.1	9	16.7	6	4.7	1	25.6	1	8.2	2	1
4	8035 東京エレクトロン	82.7	30.5	2	17.4	2	4.5	4	23.4	9	6.9	8	4
5	6503 三菱電機	82.4	29.4	6	16.7	6	4.4	8	23.9	6	8.0	4	11
6	6758 ソニーグループ	80.9	29.6	4	16.6	9	4.3	11	24.6	4	5.8	16	5
7	6702 富士通	80.8	29.0	10	15.1	15	4.4	8	24.2	5	8.1	3	9
8	6981 村田製作所	80.4	29.3	7	17.1	3	4.5	4	23.3	10	6.2	13	8
9	6857 アドバンテスト	79.6	29.5	5	16.0	12	4.5	4	23.5	8	6.1	14	10
10	6752 パナソニック ホールディングス	79.2	28.1	11	15.8	13	4.5	4	23.1	11	7.7	5	15
11	6645 オムロン	78.6	27.6	13	15.4	14	4.2	16	23.9	6	7.5	7	7
12	7741 HOYA	77.5	30.2	3	16.9	4	4.6	2	22.2	15	3.6	23	12
13	6701 日本電気	76.7	28.1	11	14.6	17	4.3	11	22.0	17	7.7	5	14
14	6504 富士電機	75.9	26.9	16	16.1	11	4.3	11	22.1	16	6.5	11	16
15	4062 イビデン	75.4	27.4	14	16.8	5	4.3	11	22.8	12	4.1	21	—
16	6723 ルネサス エレクトロニクス	74.9	26.8	17	16.2	10	3.9	20	21.2	18	6.8	10	20
17	6963 ローム	72.8	27.0	15	14.8	16	4.2	16	22.4	13	4.4	19	21
18	6971 京セラ	69.0	24.4	20	14.1	18	4.3	11	22.3	14	3.9	22	22
19	7752 リコー	67.5	24.9	18	13.4	21	3.8	23	20.1	20	5.3	17	18
20	6988 日東電工	67.4	24.4	20	13.5	20	3.9	20	19.6	21	6.0	15	—
21	6724 セイコーエプソン	65.6	22.8	22	13.4	21	4.1	18	20.9	19	4.4	19	17
22	7751 キヤノン	65.3	21.8	23	13.9	19	4.0	19	19.3	22	6.3	12	19
23	6920 レーザーテック	64.6	24.5	19	12.7	23	3.9	20	18.4	23	5.1	18	23
	評価対象企業評価平均点	76.72	27.65		15.64		4.31		22.70		6.42		

2026年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目2 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	6501 日立製作所	84.3	29.1 3	16.7 1	4.7 1	25.6 1	8.2 1	1
2	6503 三菱電機	82.4	29.4 2	16.7 1	4.4 3	23.9 4	8.0 3	5
3	6758 ソニーグループ	80.9	29.6 1	16.6 3	4.3 5	24.6 2	5.8 9	2
4	6702 富士通	80.8	29.0 4	15.1 8	4.4 3	24.2 3	8.1 2	4
5	6752 パナソニックホールディングス	79.2	28.1 5	15.8 6	4.5 2	23.1 6	7.7 4	7
6	6645 オムロン	78.6	27.6 7	15.4 7	4.2 8	23.9 4	7.5 6	3
7	6701 日本電気	76.7	28.1 5	14.6 9	4.3 5	22.0 8	7.7 4	6
8	6504 富士電機	75.9	26.9 8	16.1 5	4.3 5	22.1 7	6.5 8	8
9	6723 ルネサスエレクトロニクス	74.9	26.8 9	16.2 4	3.9 9	21.2 9	6.8 7	9
	評価対象企業評価平均点	79.60	28.35	15.97	4.36	23.47	7.45	

2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位					
			評価項目2 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)						
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位					
1	6479 ミネベアミツミ	85.7	29.3	2	18.2	1	4.4	3	24.9	2	8.9	1	1
2	6762 TDK	84.7	31.1	1	16.7	4	4.6	1	25.4	1	6.9	2	2
3	6981 村田製作所	80.4	29.3	2	17.1	2	4.5	2	23.3	3	6.2	3	3
4	4062 イビデン	75.4	27.4	4	16.8	3	4.3	4	22.8	4	4.1	6	—
5	6963 ローム	72.8	27.0	5	14.8	5	4.2	6	22.4	5	4.4	5	5
6	6971 京セラ	69.0	24.4	6	14.1	6	4.3	4	22.3	6	3.9	7	6
7	6988 日東電工	67.4	24.4	6	13.5	7	3.9	7	19.6	7	6.0	4	—
	評価対象企業評価平均点	77.06	27.85		15.98		4.34		23.12		5.77		

2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位			
			評価項目2 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)				
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位			
1	8035 東京エレクトロン	82.7	30.5	1	4.5	2	23.4	2	6.9	1	2
2	6857 アドバンテクト	79.6	29.5	3	4.5	2	23.5	1	6.1	3	3
3	7741 HOYA	77.5	30.2	2	4.6	1	22.2	3	3.6	7	4
4	7752 リコー	67.5	24.9	4	3.4	5	20.1	5	5.3	4	6
5	6724 セイコーエプソン	65.6	22.8	6	3.4	5	20.9	4	4.4	6	5
6	7751 キヤノン	65.3	21.8	7	3.9	4	19.3	6	6.3	2	7
7	6920 レーザーテック	64.6	24.5	5	2.7	7	18.4	7	5.1	5	8
	評価対象企業評価平均点	72.33	26.48		4.22		21.18		5.53		

2026年度の具体的評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅され、ポイントが簡潔にまとめられていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。 【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	4
②経営戦略と関連付けた人的資本に関する開示（従業員エンゲージメント、従業員給与等の決定方針、ダイバーシティなどを含む）および、サプライチェーン上の人権リスクに関する開示が適切に行われていますか。	8
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	12
④社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	芝野 正紘	シティグループ証券
	田中 健士	みずほ証券
	馮 逸春	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（69 名）

秋月 学	野村証券	田中 健士	みずほ証券
浅野 謙人	SBI 岡三アセットマネジメント	谷林 正行	QUICK
綾田 純也	JP モルガン証券	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
有沢 正一	岩井コスモ証券	坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント
井澤 宏之	SBI 岡三アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	中名生 正弘	ジェフリース証券会社
伊藤 健悟	QUICK	滑川 晃	シュロダー・インベストメント・マネジメント
井上 昂洋	シティグループ証券	西平 孝	岡三証券
今津 拓洋	アセットマネジメント One	西村 美香	岡三証券
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	根岸 慎太郎	大和アセットマネジメント
大川 淳士	大和証券	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	花屋 武	SMBC 日興証券
大場 剛平	野村アセットマネジメント	原島 草太	モルガン・スタンレー MUFG 証券
大牧 実慶	立花証券	番 大輝	野村証券
大山 光司	第一生命保険	馮 逸春	野村アセットマネジメント
岡崎 優	野村証券	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	藤原 毅郎	シティグループ証券
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	堀 雄介	みずほ証券
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
桂 竜輔	SMBC 日興証券	皆川 明伽	丸三証券
上辻 敦生	三菱 UFJ アセットマネジメント	宮崎 孝志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
川崎 朝映	岩井コスモ証券	宮原 秀和	丸三証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	八木原 謙一	第一生命保険
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	安田 秀樹	東洋リサーチアドバイス
古西 正幸	第一生命保険	山崎 雅也	野村証券
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	山崎 みえ	モルガン・スタンレー MUFG 証券
斉田 健一	みずほ証券	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	山田 幹也	みずほ証券
佐渡 拓実	大和証券	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
鹿内 美欧	JP モルガン証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
芝野 正紘	シティグループ証券	吉岡 篤	野村証券
銭 洋	三井住友トラスト・アセットマネジメント	渡辺 洋一郎	水戸証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
高山 理璃子	三井住友トラスト・アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。